

※1

ペンタくん

筆者の記憶ではこんな形
だった気がします……。

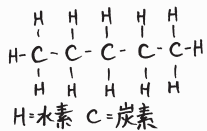


※2

ペンタン

炭素原子Cが直鎖状につ
ながっている。

ペンタンの分子構造



ペンタはファイブ!

前回、メジャー・スケールとマイナー・スケールというのを見てきましたが、今日はそれらとはまったく違う成り立ちの“ペンタトニック・スケール”について勉強しましょう。アドリブでギター・ソロなんかを弾く時によく使われるスケールで、ギタリストのインタビューだったり奏法分析なんかでも“ペンタトニック一発”っていう言葉を見かけます。これは、“ペンタトニック・スケールというスケールだけで弾きました”という意味ですね。じゃあ、ペンタトニックっていったい何なんでしょうか？ それが今回のテーマです。

ペンタというのはラテン語で5つという意味です。アメリカの国防総省の建物がペンタゴンって言われているのは五角形だからですし、NHKの「いないいないばあっ!」で昔、“ペンタくん”^{*1}というキャラクターがいたんですが、それは5つ頂点がある星形をしているからであり、“ペンタン”と言ったら炭素原子が5つ直線状に、化学用語だと直鎖状につながっている有機物^{*2}なわけです。

5音のスケール=ペンタトニック

で、ペンタトニックのペンタが5というのはわかりましたね。今まで扱ってきたメジャー・スケールとマイナー・スケールは、いずれも7つの音からできているスケールだったんですが、ペンタト

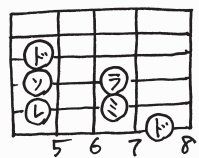
ニック・スケールは5つの音からできているというのが特徴です。というか、5つの音からできているスケールだったら、何でもペンタトニックと言います。7つの音を適当に並べてもメジャー・スケールにはなりませんよね。もとの落ち着いた音から見て、全全半全全全半という間隔で並んでいるのがメジャー・スケールで、それ以外はメジャー・スケールとは呼びません。でも、ペンタトニックは、5つの音からできていれば何でもペンタトニック・スケールと言えてしまいます。

どうして5つなのか?

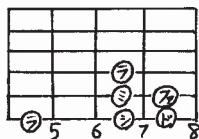
そうすると、5音というのに必然性があるのか? という疑問が出てきます。諸説あるんですが、一説によると、楽器がない状況で即興的にアアアア〜と歌うと、1オクターブが5つに分割されることが多いみたいなんです。歴史的に見てね。ギターでもピアノでも1オクターブは12に分割してありますよね。極論的になるけど、この12音全部を駆使して即興で歌えるかということ、これは非常に難しいわけです。少なくとも、楽器がない場合にはできない気がしますよね?

現に我々も、小さい頃はあまり複雑な歌を歌うことができず、簡単な童謡などを歌っていました。童謡とか唱歌というのはほとんどが5つの音だけで作られています。だから、音楽のスペシャリストじゃなくても、5つくらいの音だったら、即興で

※3
ドレミソラという並び



※4
演歌調の音階



歌ってもなんとか收拾がつけられたりするっていうことです。これが即興、つまりアドリブとペンタトニック・スケールの関わりなんですね。理論に強くないギタリストがペンタトニック・スケールに頼るのはこの辺に理由がありそうです。

ペンタは世界各国に！

で、さっきも言いましたが、1オクターブを5つの音に分割してあればペンタトニック・スケールだと言えるので、世界各国に固有のペンタトニック・スケールがあります。これはもう数え切れないほどたくさんあるらしいです。例えば代表的なものをいくつか挙げると、前回ちょっと弾いた沖縄音階……これもペンタトニックです。ゴーヤチャンプルを食べたくなってくるような音階ですよ。我々が童謡とかでよく使うのはこんなドレミソラという並び*3です。あとは、こういう演歌調の音階。*4これもペンタトニックです。

ロックにおけるペンタトニック

今から学んでいきたいのはロックやブルース系のペンタトニックです。ちょっとギターで弾いてみましょうか。こういうハード・ロック調のバックングが入ってきた時に、マイナー・ペンタ（マイナー・ペンタトニック・スケール）という音階で弾いたりします。ね、聴いたことあるでしょ？

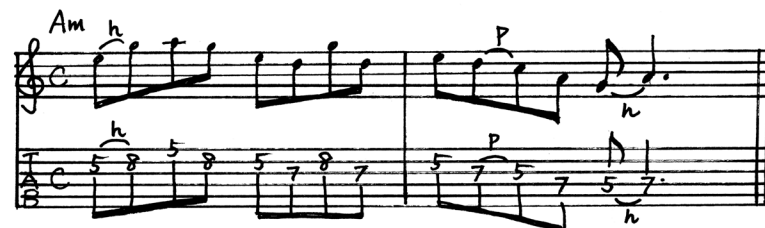
これはラドレミソという5つの音だけで弾いています。スケールだけ取り出して弾いてみると、暗い響きですよ。ラはAですから、Aの音がルートで、暗くて、5つの音……ということで、これをマイナー・ペンタトニック・スケールと言います。ギター・ソロを弾こうとするギタリストが、十中八九まずここから入っていくという重要なスケールです。

ちょっと話が戻るかもしれないんですけど、ペンタが5っていうのはわかりますけど、トニックっていうのは何ですか？

トニックっていうのは、ここで落ち着くというような意味だと思って下さい。それでAマイナー・ペンタトニック・スケールを改めてみると、暗くて、5つの音で、A音で落ち着くスケールだ、という情報が読み取れますね。

そこで問題になってくるのが、さっきの演歌音

Aマイナー・ペンタを使った典型的なロック・フレーズ



CD TRACK 25

CD TRACK 26